

古代の木簡“稲の品種管理”明らかに



矢田遺跡の遠景 奥は七尾南湾



出土した「稲の種子名列記木簡」



古代の木製小型祭祀具

七尾市^{やた}矢田遺跡の発掘調査で、平安時代の^{もっかん}木簡が出土しました（遺跡については次ページへ）。稲の品種名が二行分書かれています。このような記載の事例はこれまでに知られておらず、「稲の種子名列記木簡」と名付けました。平安時代前期（9世紀）に、稲の品種改良が行われ、当地で管理された可能性を示す、貴重な資料です。

同じ調査区から、古代の木製小型祭祀具がまとめて出土しています。形は4種類に分けられ、うち一つは農具の^{すき}鋤をかたどっていると考えられます。木簡と同じ時代のもので、今後研究を進めていきます。



R3 発掘調査

や た い せ き な な お し
矢田遺跡 [七尾市]

七尾市街地の東側に位置する集落遺跡です。七尾湾に近い水田地帯に立地し、現在の海岸までの距離は約 800m、古代では 500m 以内だったと推定されます。遺跡の北側には、七尾市最大の前方後円墳である矢田高木森古墳、北東約 1km には古墳時代の大型建物群で有名な、国指定史跡の万行遺跡が所在します。

七尾外環状線の工事に伴い、今年度から発掘調査を行っています。調査は農道を挟んで北側の A 区・南側の B 区に分けて行いました。主に弥生時代後期、古墳時代中期、平安時代前期の三つの時期を中心に、木製品をはじめとした遺物が出土しました。

A 区では、古墳時代中期から平安時代前期の遺物を含む川跡を調査しました。土師器や須恵器のほか、木簡や木製小型祭祀具（表紙参照）、曲物容器などが出土しています。

B 区では、弥生時代後期から古墳時代中期の遺物を伴った、溝や柱穴を確認しました。弥生土器や土師器・須恵器、石製品に加え、多くの木製品が出土しています。建築部材と思われる大型木製品の他、古墳時代の刀の把・鞘の未成品も出土しています。当時周辺にいた有力者との関わりを示すと考えられ注目されます。

七尾東部の矢田地域における暮らしについて、弥生時代から古代まで時代を追って確認できた調査となりました。矢田遺跡での発掘調査は、来年度以降も継続して行う予定です。



北側の調査区（A区）の様子



木簡の出土状況（A区）



南側の調査区（B区）の溝



古墳時代の刀把（右側） 出土状況（B区）



溝から出土した土器（B区）

R3 発掘調査

かんぼうじ よこあな かなざわし
観法寺ジンヤマ横穴 [金沢市]

観法寺ジンヤマ横穴は、金沢市北東部、森下川^{もりもとがわ}流域の右岸丘陵北側斜面部に立地し、その丘陵上には観法寺墳墓群が所在しています。金沢東部環状道路（国道159号・通称山側環状）改築に伴い調査を実施しました。

その結果、2基の横穴を確認し、いずれも全形は不明でしたが、丘陵に向かって左側の1基は、^{げん}玄室の前部まで削られていたものの、^{おくへき}奥壁や^{そくへき}側壁、^{ゆかめん}床面は良好に残っていました。出土遺物がなかったため、詳細な時期を知ることはできませんでしたが、周辺には岩出横穴^{いわで}墓群など多くの横穴群が所在していることなどから、同じ時期（7世紀前半から中葉）のものとみられます。右側の1基は、さらに崩壊が著しく、詳細は分かりませんでした。わずかに残る入り口部分の形状などから、近代以降の貯蔵穴の可能性が高いと考えています。

今回の調査では、横穴墓の形状を正確に記録するために三次元レーザ計測と写真を解析して作成する2つ方法を用いて、三次元モデルを作成しました。

三次元モデルからは、自由な視点でオルソ画像（正射投影画像）を作成することができます。そのため一般的な写真測量では難しい横穴墓の側壁部分や床面部分、任意の箇所^{いここ}で自由に断面を切り出して図化することができます。

また現地調査終了後でも自由な視点で観察しなおすことや、長さや幅、高さなどを計測することができます。



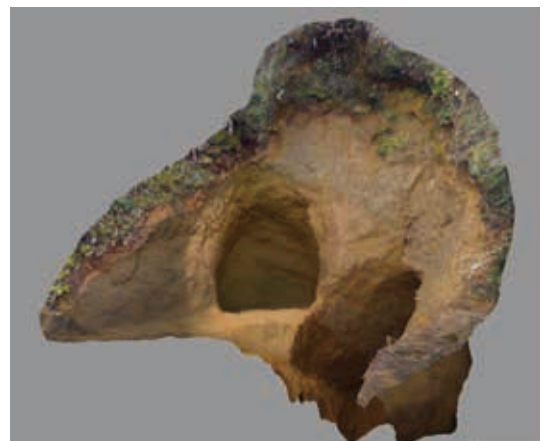
観法寺墳墓群、観法寺ジンヤマ横穴の全景



観法寺ジンヤマ横穴



三次元モデルから作成した平面オルソ画像



三次元モデル（点群データ）

R3 古代体験

『親と子の発掘体験教室』

親と子の発掘体験教室は、小学校4年生～中学生とその保護者を対象に、実際に遺跡を発掘体験する教室で、毎年2回ずつ行われてきた人気の教室です。残念ながら令和3年度は、予定されていた2回の教室のうち、「加賀市庄・西島遺跡」は新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置により中止となりましたが、「七尾市矢田遺跡」は当初の予定を変更して11月3日（祝・水）に実施し、10組24名が参加しました。

参加者はプレハブ内でガイダンスを受け、少し離れた発掘調査現場へ行き、遺構や発掘方法について説明を聞いた後、2班に分かれて昼食の休憩時間を挟み午前と午後の2回掘削しました。掘るコツを見つけてうまくできるようになると、どんどん掘り進めていき、出てきた器の底のような形の塊を職員に見せて、「これは土器なの？」と興味津々に尋ねる場面や、「えっ、もう掘る時間終了なの。もっと掘りたかった。」と時間が経つのが早すぎると残念がる場面も見られました。

発掘終了後は、プレハブ内で土器洗浄体験をしました。文様が浮き上がると、何に使われていたのか想像をめぐらす姿も見られました。参加者からは、「なかなかできない貴重な体験ができた。」「手のついていない状態で何が埋まっているのかわからないのに体験させてもらえるところが良かった。」と十分発掘を堪能できたという感想が多く聞かれました。



矢田遺跡の説明



発掘の様子



土器洗浄体験



出土品の説明

R3 情報発信

令和3年度まいぶん考古学講座

まいぶん考古学講座は、職員が考古学・埋蔵文化財に関する話題や、それぞれの研究分野における最新情報、担当した発掘調査の成果などを、わかりやすく解説する公開講座です。令和3年度は、10～12月に3講座を開催しました。講座では、講義後に県内出土の関連遺物のミニ展示・解説をおこなうことが多く、参加者の質問が多い時には終了予定時間が大きくなることもあります。

「いしかわ文字のことはじめ」では、日本列島における文字文化の受容から「つかいこなし」にいたる過程を、県内出土遺物をまじえて解説しました。小松市八日市地方遺跡の絵画土器や板石硯・研石候補（弥生時代中・後期）、金沢市千田遺跡の墨痕のある甕（弥生時代後期）などの注目遺物を展示しました。

「埋蔵文化財を後世に残す」では、出土遺物のうち劣化しやすい有機物（木、漆、繊維、骨など）、金属製品などを保存する科学的技術を、当センター実施の具体例をあげながら解説しました。遺構の保存では、本館ホールに展示している加賀市八日市遺跡金属精錬炉跡などを紹介しました。

「北陸の碧玉製品について」では、弥生・古墳時代の北陸地方における碧玉製の装飾品や宝器などの生産や流通を、県内出土遺跡・遺物の動向をまじえながら解説しました。特に、弥生時代の「交換財」としての管玉生産や、古墳時代前期における生産体制の再編成とその意義付けは、参加者の高い関心をひきました。

この講座は、少しでもわかりやすい内容となるよう、解説する各職員がいろいろな工夫を凝らしながら準備を進めています。受講料無料、事前申し込み不要の公開講座ですので、来年度以降の講座にお気軽に参加ください。

開催月日	題 目	講 師
10月24日 (日)	「いしかわ文字のことはじめ」	県関係調査グループ 和田 龍介
11月7日 (日)	「埋蔵文化財を後世に残す」	国関係調査グループ 中山 由美
12月12日 (日)	「北陸の碧玉製品について」	特定事業調査グループ 中屋 克彦

令和3年度の講座



講座風景



ミニ展示の解説風景



ミニ展示の解説風景

R3 古代体験

古代体験学習講座「^{うまがた}馬形はにわづくり」

令和3年12月19日（日）に古代体験学習講座「馬形はにわづくり」が行われ、16名が参加しました。今回の講座は体験内容が難しいため、当センターで毎年夏に実施している「^{じんぶつ}人物はにわづくり」に参加されて人物埴輪^{はにわ}を製作した経験のある方に限定して開催されました。

講座の最初にガイダンスを行ない、埴輪の歴史や種類、製作方法、小松市矢田野エジリ古墳出土の埴輪について学びました。

その後、矢田野エジリ古墳出土の「馬形はにわ」をモデルとし、研究成果に基づいて復元された製作方法を用いて、実物の1/4程度の大きさで「馬形はにわ」の製作を体験しました。

今回の講座では午前中に埴輪^{きやくぶ}の脚部と胴体下部、午後からは胴体上部を製作しました。「人物はにわづくり」と比べて製作工程が複雑で作業も難しかったため、参加者からは「思っていた以上に作るのが大変」、「人物はにわ以上に難しい」、「細かい馬の装飾が大変！」との声が聞かれました。

そして、人物はにわを作った経験を活かし、各々工夫しながら、1日かかりで馬形はにわを完成させました。

出来上がった作品は焼成時の破損を防ぐため、1ヶ月程念入りに乾燥させた後、当センターの電気窯で焼成しました。そして、全ての作品が無事に焼き上がり、1月29日（土）から体験工房で返却を開始しました。

今回の学習講座には、以前から馬形はにわを作ってみたかった、という参加者が多く、「とても楽しかった」、「難しかったけど楽しかった」との感想が数多く聞かれました。



埴輪の脚部を接合する



仕上げ作業を行う



焼きあがった「馬形はにわ」

R3 情報発信

講座考古学最前線『コシの古墳時代のはじまり』

令和3年11月27日（土）に石川県地場産業振興センターの新館コンベンションホールで開催しました。今回は、昨年度のアンケートで古墳時代の話が聞きたいとの要望が寄せられたことから古墳時代の講座となりました。

はじめに当センター調査部の澤辺利明が、平成28年度に実施した北陸新幹線敦賀延伸工事に伴う加賀市弓波遺跡の発掘調査成果を報告しました。近年まれに見る31,290㎡という広大な調査面積を発掘した結果、弥生時代後期（2世紀後半頃）から室町時代（16世紀頃）までの多くの遺構・遺物が確認できました。テーマに関連する古墳時代前期では、注目される遺構として2基の方形区画溝を取り上げ、周辺遺跡の発掘調査成果と合わせ考えて近辺に有力な首長とその居館の存在を想定し、これに関わる祭祀施設ではないかとの考えを示しました。

新潟大学の橋本博文名誉教授の講演では、コシという地域はどこかという話から始まり、古墳時代の開始時期を奈良県の箸墓（箸中山）古墳の築造時期である3世紀中頃に求め、その被葬者は卑弥呼であるとの説明に参加者の多くが興味深く聞き入っていました。

首長居館に關した話では、各地での調査事例から稲倉とみられる棟持柱建物が付随する特徴を指摘されました。北陸（コシ）、畿内、関東の古墳、集落形態、土器そして威信財である鏡を軸とした説明によって、弥生時代の終わりから古墳時代のはじまりにかけて、社会や文化がどのように変化していったのか理解を深めることができました。



講演中の橋本先生



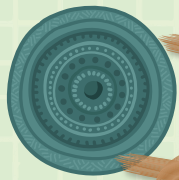
会場の様子



弓波遺跡の方形区画溝



弓波遺跡の概要を報告した澤辺氏



まいぶん日誌

令和3年
(2021)

令和4年
(2022)

11月～2月



11月

「古代の文房具づくり」
粘土をけずって硯を製作



1200度をキープ
熱さとの戦い!



無事焼成できました



「須恵器づくり」「古代の文房具づくり」
作品の焼成です



ガラス棒を溶かして、
鉄芯に巻き付けます



12月

ミニ講座「ガラス玉づくり」



年末に積雪しました



令和4年もよろしくお願いします

1月



「古代の独楽づくり」



私の独楽
元気に回れ!

学習講座「弥生の玉づくり」



石鋸で石材をカット!
きれいに切るぞ

2月

「第2回ホール展」が始まりました



昨年度刊行した報告書
から3遺跡を紹介

ミニ講座「剣づくり」



ミガキは大切! ヒカレ!

県広報番組の収録です



縄文ポシエット
づくりを紹介!

しっかり、丁寧に文様付け



学習講座「縄文土器づくり」



コロナで延期。
やっと開催

「職員研修会」



R3年度発掘調査報告